

平成23年11月5日(土)

太井遺跡 現地公開資料

大阪府教育委員会文化財保護課
河内長野市教育委員会 ふるさと文化課

調査場所 : 河内長野市太井
調査面積 : 830㎡
調査期間 : 平成23年8月～平成23年12月(予定)
調査原因 : 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」

はじめに

太井遺跡は、河内長野市の市街地から南東へ約6km、石見川沿いの標高約300mの山間部に位置します。この遺跡は、平成10年、農道工事に伴う発掘調査によって発見されました(第1次調査)。平成20年、ほ場整備工事に伴う試掘調査によって、遺跡範囲の拡大が判明し(第2次調査)、平成22・23年、小深地区で、小規模な発掘調査・確認調査が実施されました(第3次・第4次調査)。今回の調査区は、平成10年の調査区の東に接する区域です(図1参照)。

調査結果

今回、発見された主な遺構は、100基以上の土坑や石列などで、時期は中世です。土坑は、長さが1.6m、1m、0.4m前後のものなど、3種類(大中小)あります。また、平面形も円、楕円、長方形など各種あります。土坑の片隅に瓦器椀を納めたものや石を敷き並べたもの、石で覆ったものなどがあって(図2参照)、墓(土葬墓)と推定されます。中には、石敷きの間から火葬骨が検出されたものもあって、火葬墓のあることも判明しました。これらの土坑は、今回の調査区全域から検出されましたが、分布状況をよく見てみると、十数基ずつまとまっているようにも見えます(図3参照)。当時の家族単位で墓が作り続けられていた結果なのかも知れません。また、径4mの円形土坑や逆L字形に曲る石列など、用途不明な遺構もありました。

今回、出土した主な遺物は、鎌倉時代の土器(瓦器椀・土師器小皿・土師器羽釜・青磁碗など)です。また、珍しいのは土坑中から出土した鎌倉時代の丸瓦(玉縁式)です。この瓦は、遺跡の下流約3kmにある観心寺から運んできたものであったのか、あるいは観心寺とかかわりのある小寺院が付近に存在した可能性が考えられるからです。

そのほか、縄文時代後期の土器片・サヌカイト片が少量出土しました。

まとめ

- ・今から3,700年ほど前の縄文時代後期の遺物が出土したので、近くに集落跡の存在が推定されます。
- ・今から700年ほど前の鎌倉時代の墓が発見されました。観心寺領の荘園に暮らした人々の墓と推定されます。

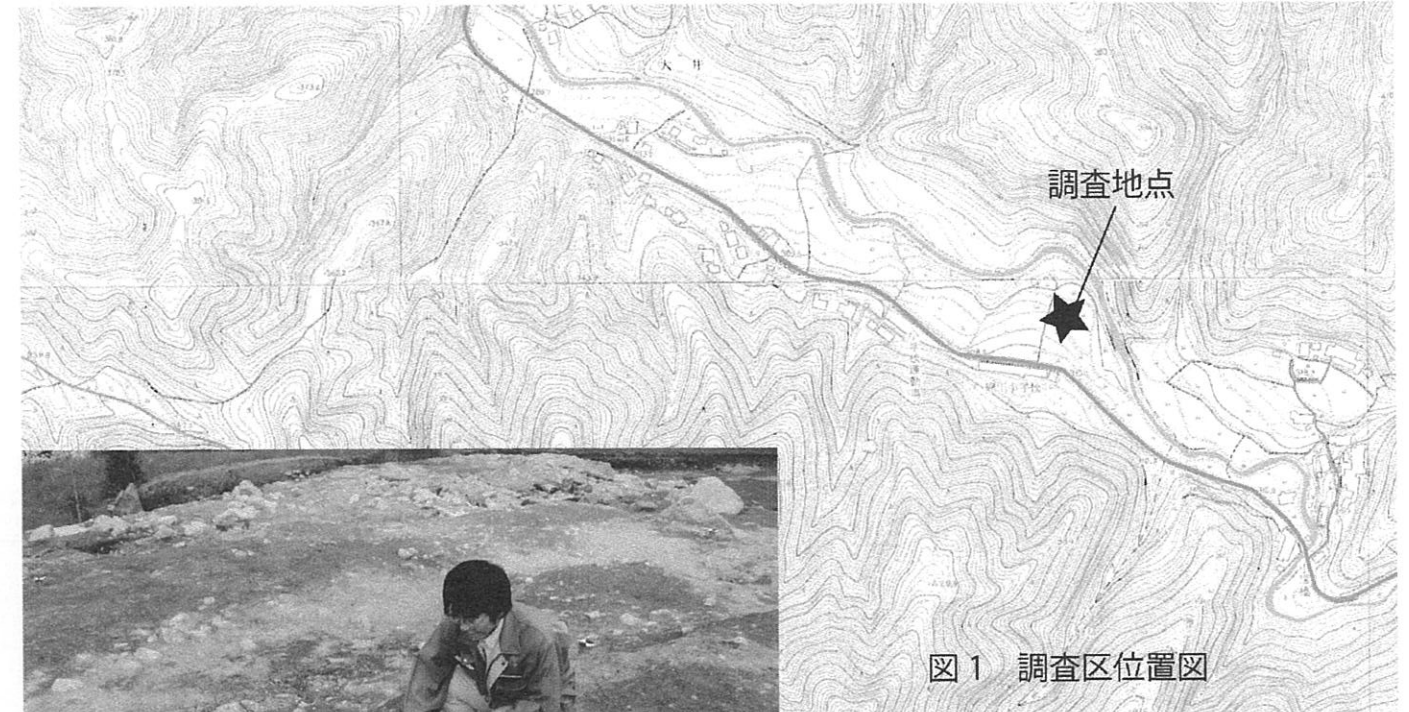


図1 調査区位置図



図2 調査状況写真

太井遺跡

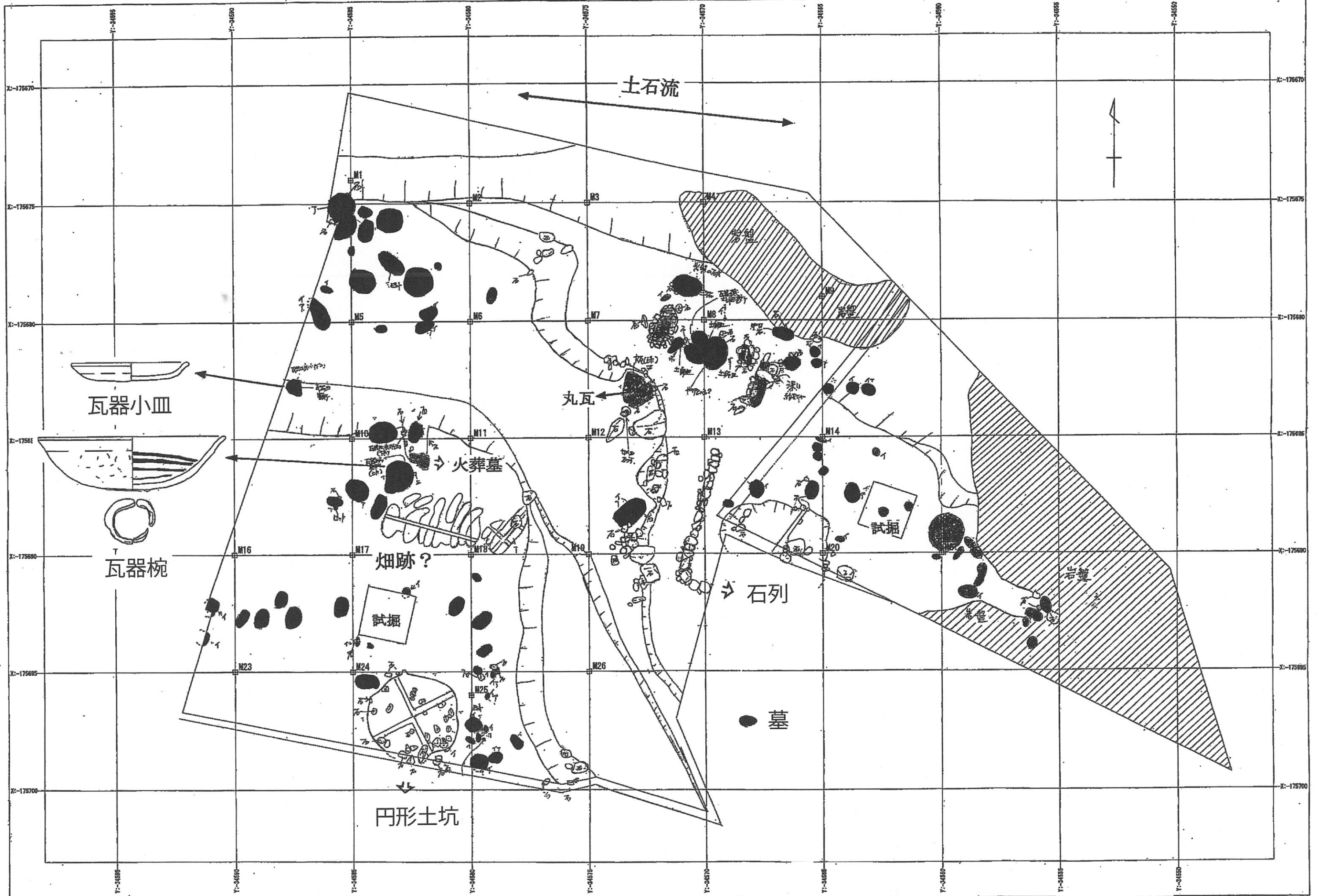


図3 調査区概略図 (S = 1/200)